

第 59 回 SSN 勉強会

「親子で楽しめる観察フィールド」 & 「子どもの応急手当の方法」

山口 由富子（市原市）

日 時：2013 年 4 月 8 日（月）9 時 30 分～15 時

講 師：午前 河添寿子（会員）

午後 日本赤十字社千葉県支部指導員（高橋氏 他）

場 所：（午前）千葉市花見川区瑞穂 しらさぎ公園

（午後）千葉市花園公民館

参加者：伊藤(敏)、大山、小川、河添、小松、佐口、佐藤(一)、弦巻、長谷川、
松尾、宮川、八木(千)、山田(益)、山口、 計 14 名

今回の観察場所のしらさぎ公園は、平成 10 年開校という瑞穂小学校に隣接し、かつて小学校からの自然観察会の依頼により、何度もフィールドとして使った場所という SSN としては周知の場所。大賀ハス発見の地という古い歴史にまみえて、新しい埋立地に生まれたという立地条件からか、ホルトノキやハンカチノキなどを含め、樹木の植栽は、周囲や時代背景のニーズに応えたのか、その樹種は多種多様で、まさに観察会向けの公園。ヤマモモの雌雄株が並んで植えられていたり、ハンカチノキも街路樹として植えられているが、どれも樹勢は悪く、公害・乾燥に弱いという特性なども知ることができた。

ご指導の河添さんは、「子ども目線に立った説明でごめんなさい」と謙遜した口調でおっしゃるが、写真を含めて観察用の小道具が多く、啓発という観点では、おとなにも十分に適応するみごとな手法と拝察した。

午後は、花園公民館へ移り、日本赤十字社千葉県支部の方々から、救急法の指導を受けた。三角巾の使用法（骨折時の副木の当て方、手の吊り方など）と AED を使った心肺蘇生法。テレビなどで使用方法をみて、わかるつもり状態になっていたが、見ると体験とは大違い。着衣を切るためのハサミやマウスピースの存在、一刻を争う機敏な行動への対応法など、講習を受けてみて、初めて知ることも多かった。

不特定多数、とくに、お子さんたちも視野に入れた時のことを考えると、この自然観察指導員協議会の会員としては、全員が、定期的に受講する必要があるのでは。

いつ、どこで、どのような形で、事に遭遇するともわからない。かつて私は、夏休みのキャンプの下見で養老川へ行き、三人で昼食をとっている目の前で、赤銅色に日焼けした青年が、水中メガネを頭上にモリを持ったスタイルで、溺れ死ぬという事件を体験している。生きている（いた）人間への人口呼吸は、初めての体験。吹き込んだ息が、胸部圧迫の時、ブルブルと悲鳴のように続いていた。

参加者のみならず、家族を救うかもしれない救急法。組織としての取り組みを、ご一考願いたい。

